

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.224

2024. 5. 31  
発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 実務者会議  
連絡先 県生協連・県消団連  
TEL 019-684-2225  
FAX 019-684-2227

## すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」 岩手の署名 31,868 筆（～5月末。うち郵送 352 通・1,369 筆）

**高校、大学の新生、若い世代に憲法宣伝と署名** —緑が丘地域9条の会・松園9条の会—  
毎年恒例になっている高校の入学式に、花巻9条の会で作成した高校生向けリーフ『「日本国憲法」を守らなくてはならないのは、誰でしょうか？』を新生に配布しました。

4月5日は、盛岡一高と盛岡三高で宣伝、200部余りのリーフを届けました。三高では、まだ入学式後、構内にとどまっている新生たちに戻って10数枚届けてくれる学生も現れました。6日には、盛岡誠桜高校でも宣伝と署名

を行いました。

4月27日は、これもここ5年間つづけている岩手大学での「憲法改悪を許さない全国署名」の呼びかけをおこないました。松園9条の会からは、2名の岩手大教官OBも参加。12名で宣伝と署名活動を行いました。

昼休みの短い時間帯でしたが、新生が圧倒的に多く全国市民アクションの「必要ですか？更なる軍事力」リーフを配りました。学生たちは「よくわからないから勉強してから」という答えが圧倒

的に多く、中には「台湾有事に備え、防衛力をもっと強め、軍事費の増大は必要」と長時間宣伝スタッフに食い下がる学生もありましたが、「ウクライナ、ガザと戦争がつづいている。先行きがとても不安」「憲法9条はこんな時期だから守るべきだと思います」という学生も多く、26名が署名に応じてくれました。（小林絃一）

## 改めて戦争を考え核廃絶と日本の役割を確認

 —日生協2024ピースアクションキックオフ集会—

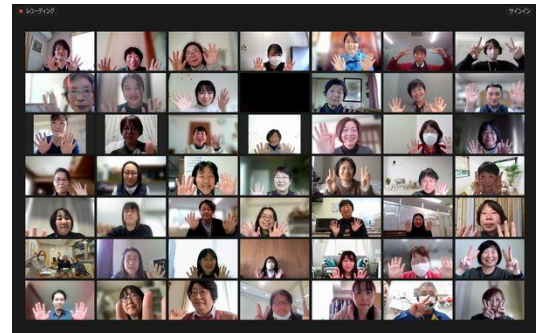
2月28日、日本生協連主催でオンラインで開催、全国43生協から223人が参加しました。

冒頭の挨拶から「2024年が、ピキニ事件から70年を迎え、翌年には戦後80年となり、次の世代につなぐ重要な年になること」を知りました。

次に、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授 渡邊英徳氏を始め、3人の講師による学習講演とパネルディスカッションを実施。78年前の戦争と、現在進行している戦争や災害の様子がわかる衛星画像の紹介がありました。戦争も災害も共通しているのは、自分の責任ではないのに住み家を追われて別の土地に住まなくてはならない人がいる、ということ。その無念さが伝わってきました。

最後に「核兵器廃絶と日本の役割」と題して、核兵器禁止条約第2回締約国会議の報告がありました。日本被団協事務局長の木戸季市氏らが報告し、議論を深めることの重要性について理解を深めました。

今回参加したことで、平和や核兵器廃絶を願っても1人では何もできないと思っていましたが、決して無力ではないと信じる力となりました。今後も、核兵器の廃絶と平和な社会の実現をめざして、取り組んでいきたいと思えます。（いわて生協理事・滝村直美）



**6月の岩手の会街宣行動 10日(月)12:15~12:45 盛岡市大通・野村証券前**

# 沖縄から考える平和と日本の未来 —5・3憲法集会inいわて開催—

5月3日、市民アクション岩手の会主催で、会場270人、オンライン40人の計310人の参加で開催しました。



集会は、主催者挨拶、連帯の挨拶、連帯のメッセージ紹介、「辺野古」県民投票の会元代表：元山仁士郎さんの講演、沖縄三線の演奏と語り、閉会の挨拶が行われました。

当日は、立憲民主、共産、社民各党から連帯あいさつやメッセージをいただき、達増知事や高橋矢巾町長、平野大槌町長からのメッセージも紹介しました。

そして、「辺野古」県民投票の会元代表の元山仁士郎さんが、「沖縄から考える平和と未来」という演題で講演。元山さんは「平和とは何か。沖縄に”連帯する”とは何か」「基地は軍事的に沖縄でなくてよいにもかかわらず、なぜ沖縄なのか」「日本に”民主主義”はあるのか。」民主主義”をどう実現していくのか」を軸に、様々な事例を紹介し、「岩手県の達増拓也知事が先陣を切って新基地建設反対に声を上げていることは沖縄にとって大きな励みです」と述べました。その後、辺野古新基地建設反対の座り込みにも参加した野崎三津さんが、沖縄への思いを語り、沖縄三線の演奏を披露。会場から大きな拍手がわきました。



参加者からは、「沖縄の現状はこのままだと日本の未来だと思う。沖縄の思いを聞いた貴重な講演だった」「基地がある事で沖縄県民の人権が奪われている。あらためて憲法を守り生かして政治を求めていきたい」「沖縄基地問題は日本全体の問題。自分事として考えていかなければ。無知・無関心ではいけない」、「野崎さんの三線演奏もお話も素晴らしかった」などの感想が寄せられました。

集会后は、会場周辺でピースパレード行いました。

◇見逃し配信はこちら⇒ <https://www.youtube.com/watch?v=eFboW-S7vRc>



## — これがアメリカ合衆国の「平和・民主主義」か？

### なんと「未臨界核実験」の実施 —

巷間、アメリカと日本の両政府による「権威主義か民主主義か」とか「台湾有事は日本の有事」などが「喧伝」される中、米政府が14日西部ネバダ州の核実験場で爆発を伴わない未臨界核実験を実施したとのこと、ロシアのウクライナ侵略の継続、イスラエルとハマスの戦闘の続く中、平和を願う世界諸国民にとり驚くべきことではないでしょうか。まずはこれを報道する記事を見てみましょう。

「米政府は16日、西部ネバダ州の核実験場で爆発を伴わない未臨界核実験を14日に実施したと発表しました。実験は2021年9月以来で、バイデン政権下では3回目です。エネルギー省の国家核安全保障局（NNSA）の声明によると、実験はローレンス・リバモア国立研究所と共同で実施。NNSAは『核兵器の安全性や信頼性を支えるのに役立つ情報を集めるため』などと正当化しています。『ニンプル（機敏な）』という一連の実験の1回目で、今後はロスアラモス国立研究所とも共同で実施するとしています。

米国は1992年以降、爆発を伴う核実験は中止して来ましたが、一方で、包括的核実験禁止条約（CTBT）に署名したものの未批准で、同条約は爆発を伴わない核実験は禁止していないとして、未臨界核実験を続けています。今回は34回目となります。

前回の実験は、翌年の報告書で明らかになりましたが、今回はNNSAが直後に公表。NNSA高官は『未臨界核実験の頻度を高めることを計画している』と表明しました。（‘24・5・19付けしんぶん赤旗から転載）」

日本のマスコミは「主権在民」、日本国憲法の下、この程度の「報道」をし、ジャーナリズム精神を発揮するべきではないでしょうか。

日本の国民運動団体はバイデン大統領あて抗議文書を提出しています。唯一の被爆国の政府として岸田首相は世界の諸国民と国連とともに、速やかに抗議の声をあげるべき、抗議文を提出すべき、日本国憲法を遵守すべきです。（T）